



学校だより

令和7年4月7日

ふるさとに誇りをもち 心豊かで たくましく生きる児童の育成
～生きる力を子どもたちに～

文責 学校長 延東省典

令和7年度が始まりました

お客様の御進級、誠におめでとうございます。

令和7年4月7日、子どもたちの元気な声とともに美作第一小学校の令和7年度がスタートいたしました。教職員にも新たなメンバーを迎え、昨年度の反省をベースに、さらに一步前に進めるよう職員一丸となって取り組む所存です。

保護者・地域の皆様には、これまでと変わらず温かいご支援を賜りますよう、本年度もどうぞよろしくお願いいたします。

学校経営について

美作第一小学校の学校経営について、4月1日に全職員を対象に話をした私の考え方の根底にあるものです。

「正しさ」より「楽しさ」を
「強要」より「共感」を
「完璧」より「前進」を
「評価」より「感謝」を
「グチ」より「希望」を

昔「学校」という場所は、地域の中心的存在として文化の最先端を歩んでいる場所だったのではないのでしょうか。しかし、現在では時代の流れの対応に苦慮し、社会環境の変化に適應できていないとの批判も聞こえてきます。残念ですがその声は、まんざらハズレではないと思います。ただ、時代や社会環境は変わっても、ヒトを人間へと成長させる場であることに変わりはありません。

この年度末で異動した職員が「不易流行」という言葉を残してくれました。「時代を超えて変わらない本質的なものと、変化を続けるものを両立させること」を意味する四字熟語です。

上手く行かないこともあろうかと思いますが、変化を恐れること無く、そして、大切なことをこぼさないよう「みんな」で知恵をしばって挑戦していきたいと考えています。

ぜひ、保護者・地域の皆さまにも、この「みんな」にご参加いただき、未来を生きる子どもたちにとって、本当に必要な力とはなにかについて、一緒に考えていただければ幸いです。

春休みの課題に挑戦する姿が・・・

子どもたちは春休みをどのように過ごしたのでしょうか。楽しく過ごせたならそれは最高です。ただ学校から示した「自分で考え、何かに挑戦する姿」が見られたでしょうか？私は子どもたちがどんな学びの成果を休み明けに持ってきてくれたのかがとても楽しみです。もしかしたら、持ってきて来られないことに挑戦した子どももいるかも知れません。例えば、毎日走ったとか、畑で種から発芽させたとか、桜を観察したとか・・・

ぜひそうした子どもたちにも、何らかの形でアピールして欲しいと思います。それは、本当の意味でのすばらしい学びだからです。「学校が課題を出さなかったので、我が子はゲームばかりでまったくやらなかった」という保護者の声を時に耳にします。課題を出さなかった学校が悪いと考えるのは簡単です。しかし、それでは本当に大切に育て、身に付けさせなくてはならない力から目を背けてしまっていることになりはしないのでしょうか。

子どもたちが届けてくれた学びは、夏と同じように掲示し全校児童で相互評価を行いたいと考えています。友だちの頑張る姿が誰かに影響を与え、次の一人を生みだしてくれるものと信じて取り組みを重ねて参ります。保護者の方にも開放し、見に来ていただける機会を設けたいとも考えています。ぜひご来場いただき、子どもたちの頑張りに励ましのコメントを返してやってください。学校の全体の子どもをみんなを育てることは、必ず我が子を育てることにフィードバックされますので、ご協力をよろしくお願いいたします。

生きる力を子どもたちに

学校だよりのタイトル部分に昨年度と変わっている部分がありますが気がつかれましたか？これに気づいた方は「学校だよりマニア」認定です。

教育目標の副題「生きる力」とはなんなのでしょうか。例をあげると、1Kg=1000gとテストに正答できた子どもが、本当に実生活の中で約1kgの砂をおよそでも感覚で計ることができる力を身に付けつけているだろうかということです。「学ぶ」ということは、自分たちの暮らしを豊かにし、そして便利に変えて行くことのできる力を手に入れることだということを、実感をもって知って欲しいのです。学校での学びを社会の中で活用する機会を創出し、「学び」への意欲を伸ばす取り組みを実直に進めて参ります。